

「シャインマスカット」短梢栽培における花穂整形法

ブドウ「シャインマスカット」は萌芽特性が優れることから短梢栽培の導入が進んでいます。果房品質を維持する目標房重（山形県の出荷規格）は600～800gですが、樹齢の経過などにより目標重量を超える場合が多くなっていました。そのため、成木期の短梢栽培に対応した目標とする果房品質を安定的に生産できる花穂整形法を開発しました。

☆ 技術の概要

1. 成木期の「シャインマスカット」短梢栽培では、開花始期に花穂先端を3cmに整形することで房作りに十分な着粒が確保され、収穫時600～800g前後の果房が生産できます(表1)。
2. 開花始期の花穂長が4cm程度では、穂軸長が長いと着粒数が多く、収穫時900g以上の果房が多くなります(表1)。また、2cm程度にすると着粒数が少なく、収穫時600g以下の果房が多くなります。また、花穂長4cm整形に比べて摘粒数が少なく、収穫時の果房のしまりが向上します(図1)。
3. 1回目のジベレリン処理後の穂軸伸長は年次変動が大きいので、果房間の生育のばらつきがある時は、摘粒時までに穂軸長を10cm以下、支梗数を15段以下に制限した後、着粒を40～50粒程度に修正します。

表1 花穂整形長別の収穫時における果房品質

年度	試験区	果房重 (g)	果粒重 (g)	果房長 (cm)	果房幅 (cm)	果皮色 ^z (指数)	着粒数 (個)	穂軸長 (cm)	支梗数 (段)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)
平成 25年	2.0cm区	572.3	17.6	16.1	12.0	1.5	32.7	6.9	8.4	18.0	0.26
	3.0cm区	718.0	17.2	17.9	12.6	1.5	40.6	9.2	11.3	18.4	0.25
	4.0cm区	907.0	16.5	20.3	12.5	1.6	56.2	11.0	15.7	18.1	0.26
平成 26年	3.0cm区	893.7	16.4	18.4	12.7	2.0	53.5	10.4	16.0	17.4	0.26
	3.5cm区	953.1	16.4	19.5	12.6	2.0	57.0	11.6	17.4	18.0	0.22
	4.0cm区	1116.0	15.8	21.5	13.5	2.0	69.7	13.9	20.4	17.7	0.22

☆ 活用面での留意点

1. 樹勢が強く、花振いが懸念される場合には、開花前の摘心処理と、メピコートクロリド液剤の散布、CPPU（ホルクロルフエニユロン）処理等を組み合わせるなどして着粒確保に努めます。
2. 花穂の整形は、その後の穂軸伸長を考慮して、生育が早く開花が進んでいる花穂はやや長めに、遅れている花穂はやや短めに整形します。
2. 詳細については、山形県農業総合研究センター園芸試験場・果樹部（電話：0237-84-4125、電子メール：yengeishi@pref.yamagata.jp）にお問い合わせください。
(農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田雅人)

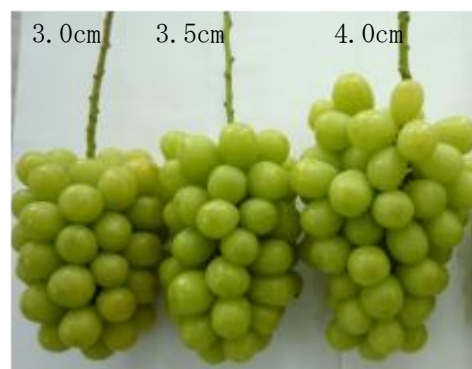


図1 果房外観 (H26年10月8日収穫)